

難解なイメージが強い「囲碁」が幼い子どもたちに浸透している。今年 2 月には 5 歳以上が遊べるように簡略化したゲーム「ななろのこ」が発売され、予想を上回る

知育ゲーム 囲碁に脚光

売れ行き。尼崎市内では保育に取り入れる幼稚園もあるなど「知育ゲーム」として静かな広がりを見せている。
(金川 篤)

囲碁は、縦横に引かれた線の交点に碁石を打ち、陣地を取り合うゲーム。縦横各 19 本の線が引かれた通常の碁盤(19 路盤)での対局は初心者には難解だが、入門用には 7 路盤や 9 路盤などを用いる。

7 路盤を改良した「ななろのこ」は教育関連の出版を手がける幻冬舎エデュケーション(東京)が発売。盤上の交点にニンジン、碁石に馬を描き、馬がニンジンを取り合うゲ

ームにした。物語性があり、簡単な言葉や絵でルールを教えることができる。約 1 万 6 千個を販売している。同社は 2 年前、碁石にリンゴを描いた 4 路盤「よんろのこ」を開発し、これまでに 5 万個以上を販売。担当の佐藤有希さん(27)は「1 万個が売れば業界ではヒット商品といえる。少子化で親の教育熱が高まる中、遊びながら頭脳を鍛える囲碁(6)は「一手先を考えるのが楽しい。家では

ついているのでは」と分析する。

◇ 尼崎市内から幼稚園は 5 年前、思考力や集中力を養うことを目的に囲碁を導入。現在は系列の 3 園の年長児約 270 人が週 1 回の講座を受け、相手の石を囲んで取る「ボン抜きゲーム」から始めている。

13 路盤で友達と対局していた安宅朔良君(6)は「一手先を考えるのが楽しい。家では

簡略版販売好調／保育に活用 思考力や集中力養う

5 歳以上向けに開発された「ななろのこ」 大阪市内



おじいちゃんと 19 路盤で打つ」と笑顔を見せる。保育に取り入れる幼稚園は関西では珍しいという。同園では週末や放課

後にも教室を開き、園児のほかに卒園生らもプロ棋士や地域の愛好家から指導を受ける。子どもたちは近隣のアマチュア大会に出場

5 効果を実感する。「ななろのこ」は書店や玩具店で販売。2100 円。同社 03・5411・621

し、卒園生の中にはプロを目指す子も。指導する水戸夕香里三段(48)「西宮市」は「感情のままに動く年代にとって、相手の手を考える貴重な機会。好きなように打っていた子も負けると慎重になる。対局を通じて人見知りも減る」と導入



子どもたちを指導する水戸夕香里三段(手前左)＝尼崎市武庫之荘 5、武庫からたち幼稚園(撮影・宮路博志)